

## 秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科博士課程 講義概要 (案)

本大学院の教育課程は、「研究基盤科目」「研究展開科目」「研究指導科目」によって構成する。

### 1 研究基盤科目

研究基盤科目には、学生が自立的な研究を進める際に、研究テーマを問わず共通して必要となる調査方法、分析方法、評価方法等を修得することを目的とした基盤となる科目を配置する。

#### (1) 「複合芸術研究法」(必修：1単位：1年次前期)

「複合芸術研究法」では、3年間の研究活動を俯瞰しながら、今後、各自のテーマに基づいて進められる複合の視点からの「表現の研究」、「理論の研究」に向けて、表現研究の対象選定とアプローチ、論文作成に求められる手順や解析の手法などを理解する。

「表現の研究」については、研究テーマとする表現分野に関連する事例の選定、複合の視点からの要素分解と解析、仮説の設定、具体的な実践を基にした表現手法の検証などを通じて、自身の軸を踏まえた領域横断的な表現の拡張に向けた道筋を概観する。また、「理論の研究」については、「表現の研究」の手順に加えて、学術論文の基本的な枠組みや構成要素を理解し、文献検索や研究事例の収集、仮説設定と実験手法、データの収集と整理、理論検証、考察手法等を学び、自らの論文作成を効率的に進めるための方法を修得する。

なお、「表現の研究」と「理論の研究」は、相互に深く関連するものであることから、表現指導を行う教員と論文指導を行う教員がオムニバス方式で集中的に開講する。

### 2 研究展開科目

研究展開科目は、本課程における現代芸術を対象とした「複合の視点」からの研究の根幹を成す「表現」と「理論」双方からのアプローチとその相互応答を踏まえた新たな表現拡張と理論化・体系化につながる中心的科目を配置し、博士論文作成に向けた実践的研究を展開する。

#### (1) 「複合芸術表現研究Ⅰ」「複合芸術理論研究Ⅰ」(必修：各2単位：1年次隔週通年)

「複合芸術表現研究Ⅰ」と「複合芸術理論研究Ⅰ」では、1年次を通じた隔週の交互開講とし、研究テーマを踏まえながら、表現研究を指導する教員2名と理論研究を指導する教員2名がそれぞれチームを組成し、具体的な事例を対象とした仮説の設定と検証などを含む実践的な研究の指導・支援を通じて、「分析力・解析力」を修得させる。なお、当該科目の指導に関わる教員は、研究の進行に応じた表現と理論の関連等が効果的に整理されるよう、適宜両チームによる協議を行う。

(2) 「複合芸術表現研究Ⅱ」「複合芸術理論研究Ⅱ」(必修：各2単位：2年通年)

「複合芸術表現研究Ⅱ」と「複合芸術理論研究Ⅱ」では、1年次の体制を継続し、博士論文の作成を見据えて、表現と理論の相互に裏付けられた研究成果のさらなる探求を通じて、「転換力・応用力」を修得させる。

### 3 研究指導科目

研究指導科目は、博士課程の研究テーマに基づく成果を論文として取りまとめることを念頭に、研究指導教員が1年次から通年の3年間に渡って継続的に指導にあたります。

(1) 「複合芸術特別研究Ⅰ」(必修：2単位：1年次通年)、「複合芸術特別研究Ⅱ」(必修：2単位：2年次通年)、「複合芸術特別研究Ⅲ」(必修：4単位：3年次通年)

「複合芸術特別研究」では、学生の主体的な研究をサポートするため、研究指導教員等の助言・指導を踏まえて研究テーマを設定したうえで、3年間の継続研究をもとに最終的に博士論文を取りまとめる。学生は、研究指導教員との協議のもとで研究計画を立案し、自ら進行をマネジメントしながら研究を深化させ、所期の成果が得られるよう研究を進める。